

## 旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会 第2回 会議録（概要）

日時 令和元年(2019) 11月18日 16:30~17:12

場所 須坂創成高等学校

### 1 開 会

欠席：市村良三委員、内山信行委員、小嶋隆徳委員、神林章委員、桜井昌季委員、  
藤澤一彦委員、牧良一委員、望月隆委員、有賀透委員

### 2 あいさつ

三木会長

### 3 意見交換・協議会

会長：

中野立志館高校と須坂創成高校の2校を見させていただいて大変勉強になったと思う。2校を視察して、どのようなことでも結構なので、意見・提言等発言いただきたい。

委員：

どちらの学校も、校長先生はじめ諸先生方が熱心に子どもたちを見てくださることを感じ、ありがたく思った。高校をどう統合するのかという話に傾きがちだったが、この会の論点として、将来どうあるべきかということから逆算して考えたときに、非常に間口が広く、明るい気持ちになった。

委員：

両校の施設への投資の大きさを実感した。デュアルシステムをもっと一般の人たちの学びの拠り所にもできないか。行政でできない部分を企業がカバーしていくことで、この地域が発展すると感じた。これだけの投資をこの地域でもっと有効活用することで、さらに投資して、そうすることで地域も伸びる。それを発信していくことも必要だと感じた。

委員：

どちらの生徒も在学中にいろいろな資格を取って、就職・進学に活かしているところが素晴らしい。どちらの高校も専門の学科以外の授業が選択できるよ

うになっており、進学・就職の幅も広がっている。また、選択学科以外の学科に進路変更できることも分かった。

委員：

中学生は、自分が将来どうしたいのかわからない中で、高校受験しなければならない。そんな中で、進路変更できる指導がなされているところは素晴らしい。創成高校には農業科がある。やりたいことがあって進学・就職しても、やっぱり農業もいいかもしれないと思ってもらえる、そういう学びの場があることに興味を持った。

委員：

視察して、もう一度高校生活をしたくなった。学ぶ幅が広すぎ、迷う子どももいるのではないかとも思うが、色々なことが学べる環境は、子どもたちにとっては素晴らしいこと。

委員：

中学、高校の早い段階から、将来的な方向付けをするのは良いこと。以前に比べ福祉職の人气が減っている中であって、立志館高校では、ケアプランを作成する授業に生徒が大勢いてうれしくなった。

委員：

両校とも子どもたちの目が良かった。中学でキャリア教育としてどこまで絞り込めるのかと考えたとき、両校とも16歳の段階である程度自分を固めるが、その後のフォローができるカリキュラムができています。それぞれの高校が考えている方向は、中央に向かって人材を輩出していくというよりは、地域を作っていくというところに向いていると感じたし、そうなってほしいと思った。

委員：

普通科の分類で専門を学べる総合学科は、従来の普通科の科目も学べるし専門科の学習もできる。対して、専門の学科だけれど、第1次産業、2次産業、3次産業の価値を連携させた発想ができるような、産業間の垣根を低くしている総合技術高校。第2通学区にどういう高校があることで地域が元気になるのか、どういう高校を残していくのかではなく作っていくのか、そういう観点で考えたい。

委員：

少子化、働き手不足が一番心配。どれほどの高校生が地元に戻ってくれるのか。イベント等を行う際にも、高校生に声をかけて、地元の良さ、自分たちで地域を良くしていこうという芽を植え付けているが、なかなかうまくいっていないのが現状。実業系の高校には、地域と密着したシステムを作ってほしい。

委員：

生徒の希望に合わせて、様々なカリキュラムを作っていることが良く分かった。企業の立場からすると、昨今、採用しても長続きしない傾向がある。また、新しい企業家を育てないと地域が衰退するという危機感もある。地域に貢献できる、自立できる人材を育てていただきたい。

委員：

2校とも生徒の育成方針が明確で、特色ある学校だった。目の前に高校の入試制度改革が迫っている中で、どの高校も、今日のように特色をよく説明していただくと、生徒の選択の助けになると感じた。

委員：

生徒の数は減るので、何らかのかたちでは全体の定員を減らさないとならないという現実がある。今日見た2校は比較的新しい学校。普通科の高校をどうするのか考えたとき、創成高校に普通科があってもいいのではと感じた。

委員：

たくさんの学科が一緒になっていることの良さを見た。以前創成高校で、農業科の先生が工業科の先生に相談している場面を生徒が見ていて、先生方もすごく研究しているんだと生徒が感動していた。これは、一つのことを学びながら、他と一緒にやっていることの良さではないか。同じようなことが立志館高校でもあるのではないか。これからの子どもたちには必要なことだと感じた。また、キャリア教育は、中学でもっと突っ込んで見直す必要がある。

委員：

総合学科高校と総合技術高校、若干の位置づけの違いはあるが、両校とも多様なコースがあり、子どもたちの希望に応じて選択できる仕組みはとても良いことだと思う。今後も、この地域のニーズ、想いを受け止める中で、コースを考えてほしい。

委員：

両校とも新しい高校なので、先生方も創意工夫しながらチャレンジできるのかと思った。そういった環境を他の高校にも作ってほしい。また、先生の人数にも配慮してほしい。我々の時代の専門高校のイメージとは全く違っていたので、この2校を多くの人に知っていただくことが必要だと感じた。

委員：

子どもたちにとって魅力のある学校、選択肢が確保されることが大事だと思った。地域の人材不足が一番懸念される場所だが、高校生の時に地域課題に関わった生徒は地域に帰ってくる率が高いそうだ。地域に密着した学校であってほしい。また、今後考えることだが、地域の学校、社会人も学べるような高校でもあってほしい。

委員：

「地域が魅力ある学校を作れば人口移動が起きるのではないか。そもそも学校は地域との強い関わりの中で存在しているのだから、これからは高校も戦略的に作っていかなければいけない」と、かねがね思っていた。今日二つの高校を見学して、総合学科高校や総合技術高校のような学校に、地域の将来があるような気がしてきた。大学で全部あるのが総合大学。高校の段階でこういった学習をしているということは、地域における大学と一緒にんだという考え方も持てるのではないか。実学レベルで実社会に対してストレートにつながる、そういった教育が行われているのが地域の高校ということではないか。

委員：

二つの高校を視察し、特色ある学校運営が勉強になった。目標を持って、自立できる子どもたちを育てる環境づくり、高校づくりが大事だと感じるとともに、こうした高校を、中学生をはじめ多くの方々に知っていただくことが大切だと感じた。

委員：

立志館高校があれだけうまくいっているのを見ると、再編はあの形でいいのではないかと思った。創成高校では大学と同じ教員と生徒の比率。高校は教員の研究が大学より少ないと思うので、教育の部分に力が入っている。実学を学ぶという意味では、大学よりこちらの方が良い。デュアルシステムはインター

ンシップだと思えば、高校の実学の部分を地元の企業が担うのもいいのではないか。そうすることで、地元で育てたい学生を地元が育てているという形になり、地元への定着率も上がるのではないか。

会長：

皆さんから重要かつ参考になる意見をたくさんいただいた。副会長とも相談し、これからの高校の在り方について検討してまいりたい。

事務局：

協議会の全体の進行については、災害等もあり、当初お示しした日程より遅れ気味である。次回は先の見通しも含めてお示ししたい。